

2015年3月期 第3四半期電話会議資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 IRグループ

TEL: 03-3248-2167

E-mail: irinfo@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

通期見込に対しては概ね計画通りに進捗

単位: 億円

	第3四半期			第3四半期(累計)			通期						
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		中計比	
		増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減	中計	増減
加工食品	567	19	3%	1,660	108	7%	2,194	150	7%	2,194	0	1,975	219
水産	204	-5	-3%	551	-4	-1%	686	-0	-0%	686	0	650	36
畜産	243	11	5%	663	56	9%	830	29	4%	830	0	725	105
低温物流	460	16	4%	1,349	73	6%	1,760	76	5%	1,760	0	1,726	34
不動産	11	-3	-18%	36	-2	-6%	47	-3	-6%	47	0	48	-1
その他	11	-0	-1%	28	3	10%	41	4	11%	41	0	40	1
調整額	-49	2	-	-149	-3	-	-201	-10	-	-201	0	-194	-7
売上高合計	1,447	40	3%	4,138	229	6%	5,357	245	5%	5,357	0	4,970	387
加工食品	18	1	4%	39	12	45%	55	21	62%	55	0	73	-18
水産	2	-3	-55%	5	-1	-21%	5	1	19%	5	0	5	0
畜産	2	-1	-24%	4	3	440%	5	4	293%	5	0	7	-2
低温物流	30	-2	-5%	71	-5	-6%	82	-7	-8%	82	0	83	-1
不動産	6	-1	-13%	16	-2	-12%	21	-3	-11%	21	0	21	0
その他	2	-0	-1%	3	1	25%	4	-0	-0%	4	0	4	0
調整額	1	1	-	-1	-1	-	-7	-8	-	-7	0	-7	0
営業利益合計	60	-4	-7%	137	7	5%	165	7	4%	165	0	186	-21
経常利益	59	-4	-6%	135	10	8%	159	15	10%	159	0	179	-20
当期純利益	35	-8	-18%	78	-7	-8%	90	1	1%	95	-5	110	-20

為替レート	2014年 見込	2014年 実績	2013年 実績
米ドル/円	105.00	102.96	96.71
ユーロ/円	135.00	139.54	127.36

ROE	7.0%	-0.3%	7.4%	-0.4%	8.6%	-1.6%
EPS	31円	0円	33円	-2円		

注: 実績は1月~9月までの期中平均で算出

参考: 14年4月~12月までの期中平均レート 米ドル/円 106.88円

1. 売上高は主力の加工食品と低温物流が引き続き堅調に推移し増収。
2. 営業利益は水産と低温物流の減益を加工食品でカバーできず全体で減益。
3. 通期見込は少数株主利益が増加する見通しのため当期純利益のみ下方修正。

※当資料では別途断り書きがある場合を除き、第3四半期単独のコメントを記載

営業利益の進捗に遅れがあるものの、4Qでカバーし見込を達成

単位: 億円

		第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高 計	567	19	3%	1,660	108	7%	2,194	150	7%	2,194	0
	家庭用調理品	151	4	3%	443	17	4%	596	25	4%	604	-8
	業務用調理品	259	4	2%	739	44	6%	971	60	7%	965	6
	農産加工品	49	-1	-2%	152	2	1%	195	2	1%	198	-3
	海外	69	11	19%	193	34	21%	266	48	22%	261	5
	その他	38	0	1%	131	11	9%	166	14	9%	166	0
	営業利益	18	1	4%	39	12	45%	55	21	62%	55	0

注: 通期見込の売上高の内訳を変更

- 調理冷凍食品の販売は引き続き堅調に推移。営業利益は円安による原材料・仕入コスト増を2Qに実施した業務用輸入調理品の価格改定効果などでカバーし増益。
4Qでは7年ぶりのほぼ全面的な価格改定の実施に加え、商品ミックスの改善を推進する。
- 家庭用調理品は主力の米飯類を中心に堅調に推移。但し、消費増税後の需要回復の遅れにより増収幅は縮小傾向。
- 業務用調理品は採算性をより重視した商品施策を実行。上期と比べ増収幅は縮小したが、通期見込に対し計画通り進捗。
- 海外はタイのGFPTニチレイと米国のイノバジアン・クイジーンの販売が引き続き好調に推移。
GFPTニチレイの第4加工ラインは予定通り2015年4月から稼働の見込み。

水産は事業環境の悪化により減益、畜産は計画通り進捗

単位:億円

		第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	204	-5	-3%	551	-4	-1%	686	-0	-0%	686	0
	営業利益	2	-3	-55%	5	-1	-21%	5	1	19%	5	0
畜産	売上高	243	11	5%	663	56	9%	830	29	4%	830	0
	営業利益	2	-1	-24%	4	3	440%	5	4	293%	5	0

- 1.水産はエビの供給が素材品を中心に回復傾向。これまで高値で釣り合っていた需給バランスが乱れ、国内相場は下げ基調に。販売が計画通りに進まず全体では減収減益。
4Qでは在庫回転を重視した買付と販売に徹することで相場の変動リスクに備える。また、好調に推移する外食などのユーザールート向けに最適な加工度の商品を拡販する。
- 2.畜産は畜肉の販売価格が全般的に上昇し増収。ビーフは供給不足のなか、調達ルートを活かし安定した販売に繋がったことで利益に貢献。一方、円安による仕入コスト増で輸入チキンの採算性が悪化したことにより全体では減益。

全体では計画通り進捗、輸配送コスト増の影響は想定線上で推移

		第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
低温 物流	売上高計	460	16	4%	1,349	73	6%	1,760	76	5%	1,760	0
	国内小計	378	10	3%	1,110	43	4%	1,448	50	4%	1,448	0
	物流ネットワーク	236	-6	-2%	697	-1	-0%	913	-9	-1%	913	0
	地域保管	142	16	12%	412	44	12%	535	59	12%	535	0
	海外	79	11	16%	228	34	18%	294	31	12%	294	0
	その他・共通	3	-5	-59%	12	-5	-28%	18	-4	-19%	18	0
	営業利益計	30	-2	-5%	71	-5	-6%	82	-7	-8%	82	0
	国内小計	28	-2	-6%	65	-5	-7%	75	-7	-9%	75	0
	物流ネットワーク	12	-1	-7%	25	-5	-17%	32	-5	-12%	32	0
	地域保管	16	-1	-5%	40	0	1%	43	-3	-6%	43	0
海外	2	-0	-3%	7	-1	-14%	9	-2	-18%	9	0	
その他・共通	-0	0	-	-1	2	-	-2	2	-	-2	0	

1.国内は下期から稼働した咲洲DCの新設効果により増収となったが、営業利益は償却負担増などが響き減益。輸配送コストは依然として上昇しているが、適正料金の收受や運送効率化の推進により2Q決算時点の想定通りに推移。

2.海外は欧州での運送需要の取り込みや円安による為替換算影響もあり増収となるが、チキンや輸入果汁の在庫が前年を下回る水準で推移し減益。欧州景気の低迷が続くなか、新規顧客の獲得と既存顧客からの集荷拡大に努める。

參考資料

連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	14/3	14/12	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,315	1,560	245	①
固定資産	1,869	1,989	119	②
資産の部合計	3,185	3,549	364	
〔負債・純資産の部〕				
流動負債	955	1,078	122	③
固定負債	861	983	122	④
負債の部合計	1,816	2,062	245	
純資産の部	1,368	1,487	119	⑤
(うち株主資本)	1,248	1,297	49	
有利子負債	1,060	1,111	50	④
(うちリース債務除く)	857	926	69	
科目	13/12	14/12	増減	
設備投資額	152	175	22	
(うちリース資産除く)	131	158	27	
減価償却費	107	114	6	
(うちリース資産除く)	78	86	7	

【主な要因】

- ① 売上債権 +199
(売上の増加と年末需要による季節的要因)
- ② 有形固定資産 +55
(主力事業の収益基盤拡大のための設備投資)
- ③ 買掛金 +81
(季節的要因)
- ④ 社債 +100(長期の安定資金の確保)
- ⑤ 利益剰余金 +49、その他の包括利益累計額合計 +56

営業外収支・特別損益の変動要因

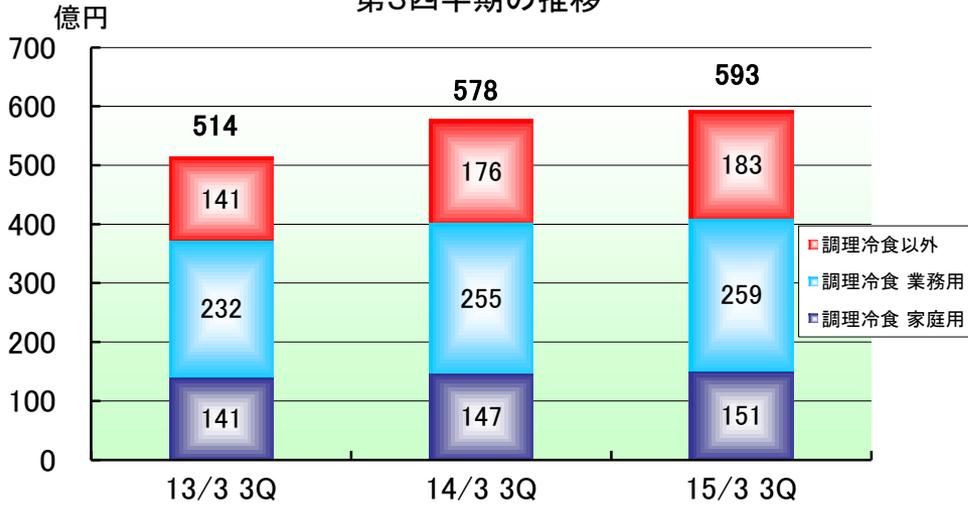
単位: 億円(未満切り捨て)

プラス表示は利益を示す		第3四半期累計			通 期		
		13/12	14/12	増減	14/3	見込	増減
【営業外収支】		-4	-1	3	-13	-6	7
(主要項目)							
金融収支		-2	-3	-0	-2	-6	-4
持分法による投資損益		2	1	-0	-7	0	① 7
【特別損益】		11	-7	-18	9	-9	-18
(主要項目)							
投資有価証券売却益		19	0	-18	21	0	-21
固定資産売却損・除却損		-6	-8	-2	-9	-10	-0
減損損失		-0	-0	0	-4	-0	4

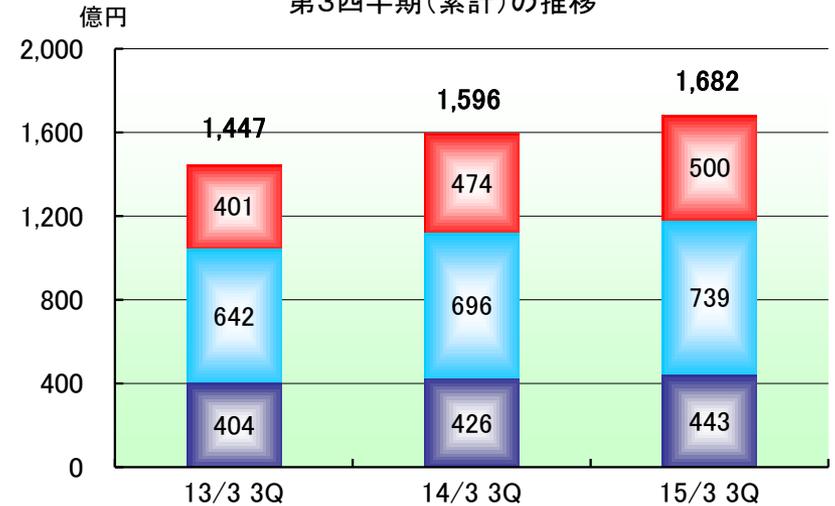
①前期に東京団地冷蔵の冷蔵倉庫建て替えによる損失を見積もり計上

冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

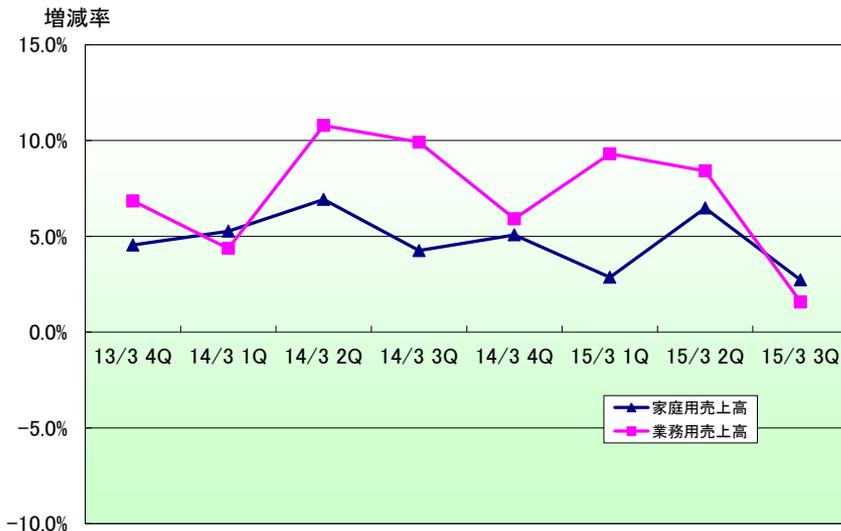
第3四半期の推移



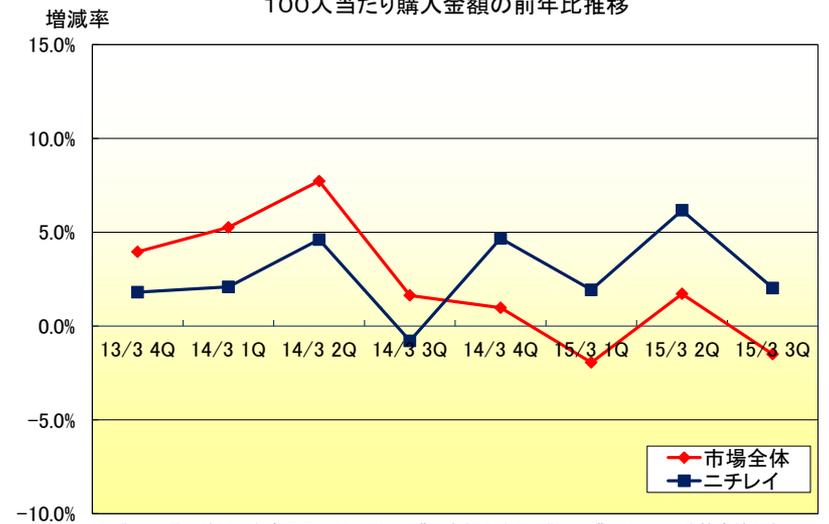
第3四半期(累計)の推移



当社の家庭用・業務用調理冷蔵の売上高前年比増減率推移



SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年比推移

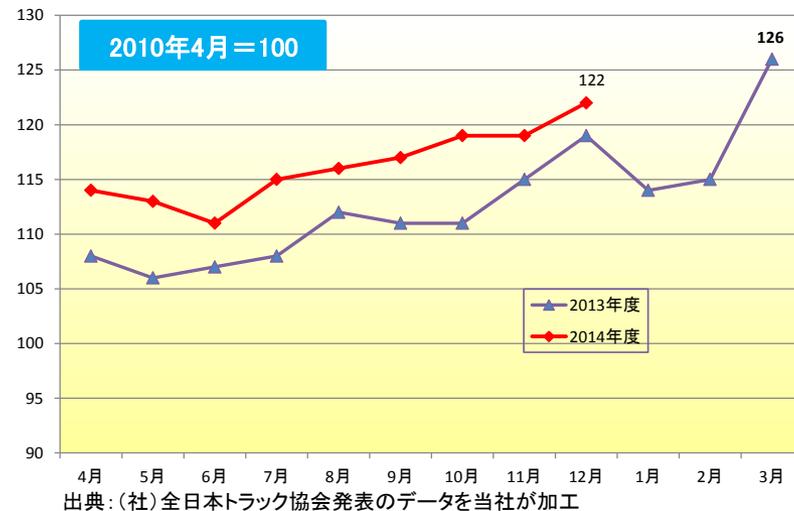


出典：インテージSCI(冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同期比。購入ルート=生協店舗を除く)

タイ国内鶏肉卸売価格の推移

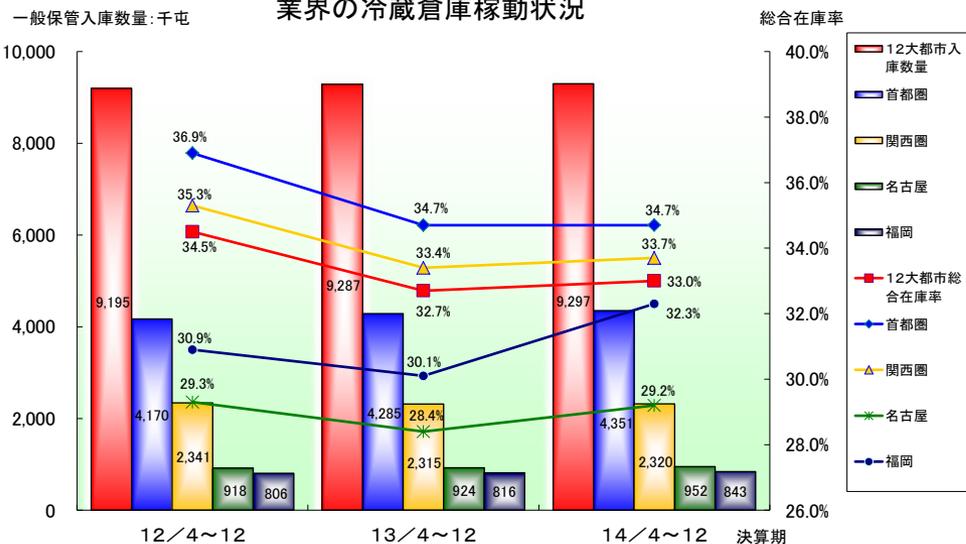


成約運賃指数(月別)の推移

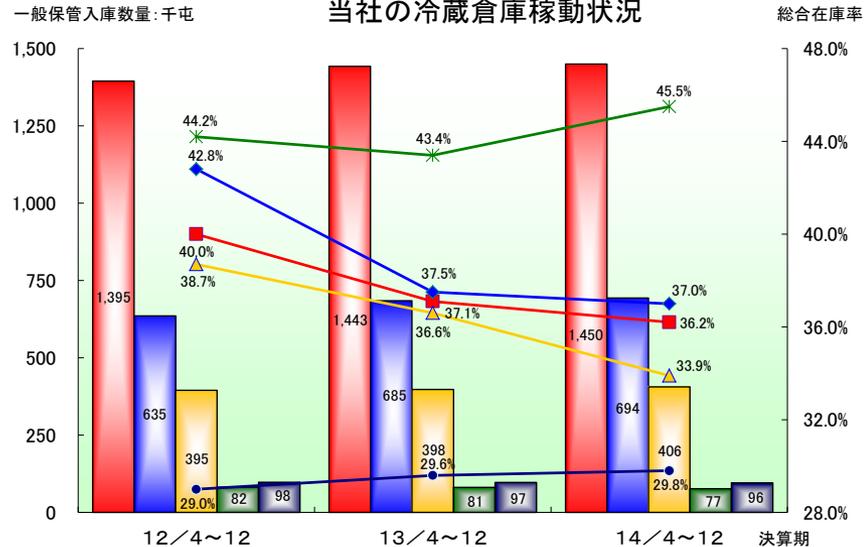


冷蔵倉庫の稼働状況(業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

業界の冷蔵倉庫稼働状況



当社の冷蔵倉庫稼働状況



注:在庫率は冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

次年度からの売上計上基準変更の検討について

1.変更を検討中の内容

(変更前)

販売促進費等を費用確定時に「販売費」に計上

(変更後)

売上計上時に「売上高」から控除

2.実施時期

2016年3月期 第1四半期から

3.理由

販売促進費等が取引条件の決定時に考慮される傾向が顕著となっているため

4.影響額

加工食品事業では現行の計上基準に比べ売上高が10%程度減少し、販売費も同額減少することが見込まれる

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。